

平成 24 年度

事 業 報 告 書

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

学校法人 高野山学園

## 目 次

I.	法人の概要	1
1.	法人の目的	1
2.	設置する学校の所在地等	1
3.	設置する学校・学部・学科等	2
4.	入学定員及び学生数	2
(1)	高野山大学	2
(2)	高野山高等学校	3
(3)	高野山幼稚園	3
5.	役員・教職員数	3
(1)	役員	3
(2)	教職員数	3
II.	事業の概要	5
1.	高野山学園法人本部	5
(1)	事業の概要	5
(2)	今後の課題	6
2.	高野山大学	8
(1)	事業の概要	8
(2)	今後の課題	18
3.	高野山高等学校	19
(1)	総論	19
(2)	現状	19
(3)	平成 24 年度事業計画	20
(4)	平成 24 年度補正予算、それ以降の予算編成に向けて	21
(5)	事業の概要	22
(6)	今後の課題	26
4.	高野山幼稚園	27
(1)	事業の概要	27
(2)	今後の課題	28
III.	財務状況要	29
1.	平成 24 年度の財務状況	28
(1)	資金収支計算書	
(2)	消費収支計算書	
(3)	貸借対照表	
2.	高野山学園 資金収支計算書	30

3. 高野山学園 消費収支計算書	31
4. 高野山学園 貸借対照表	32

## I. 法人の概要

### 1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。〔学校法人高野山学園寄附行為〕第3条)

### 2. 設置する学校等の所在地

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2922	本部長：森 寛勝
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL : 0736-56-2921 (代)	学長：藤田 光寛
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL : 0736-56-2204 (代)	校長：岡本彌久
高野山幼稚園	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL : 0736-56-2320	園長：倉岡 弘叔

### 3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等		
高野山大学	文学部	密教学科	
		スピリチュアルケア学科 <sup>*1</sup>	
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
別科			
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
高野山幼稚園			

※1：平成22年度より募集停止

### 4. 入学定員及び学生数（平成24年5月1日現在）

#### （1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文 学 部	密教学科	50	38	200	159
	スピリチュアルケア学科			55	10
	計	50	38	255	169
大 学 院	密教学専攻 修士課程	13	6	26	26
	博士後期課程	3	3	9	6
	修士課程（通信教育課程） <sup>*1</sup>	20	20	4	149
				0	
院	仏教学専攻 修士課程	8	0	16	3
	博士後期課程	3	0	9	1
	計	47	29	100	185
	別科	30	2	60	2

※1：5月1日現在につき、通信教育課程は前期セメスター入学生数

## (2) 高野山高等学校

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	43	360	122
宗教科	20	11	90	23
計	80	54	450	145

## (3) 高野山幼稚園

区分	入学定員	入学者数	収容定員	児童数
	30	15	30	18

# 5. 役員・教職員数（平成 24 年 5 月 1 日現在）

## (1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	庄野 光昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

## (2) 教職員

### ①法人本部

区分	専任職員
事務局	1

## ②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	助教	非常勤講師
教育職員	1※1	13	2	3	44

区分	専任職員	契約職員	嘱託職員
事務職員	14	5	2

※1 は内数。

## ③高野山高等学校

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1※1	1※2	13	13

区分	専任職員
事務職員	14

※1・※2 は内数。

## ④高野山幼稚園

区分	園長	専任教諭	契約職員
教育職員	1	5	2

## II. 事業の概要

### 1. 高野山学園法人本部

平成23年4月から本格始動した法人本部では、学園全体の経営方針を“学生・生徒募集に向けた魅力ある学校づくり”と定め、特に大学部門・高校部門の改善・改革案として、各種の事業計画・立案（P）・運営（D）を行なった。今年度はそのチェック（C）・アクション（A）をする年にあたる。

また、平成23年4月1日より、新しい給与規則（別表のみ）・定年規則・退職金規則が先行実施され、人件費面での経費圧縮が図られている。今年度はその2年目。

今後は、長期の収支計画により、毎年の予算執行状況の管理を徹底しつつ、収入の増加に向けた取り組みを、継続して進めたい。

今年度は、平成24年10月16日に文部科学省学校法人運営調査委員による法人本部と大学の運営調査を受け、その結果、次のような指導・助言事項の通知（平成25年2月22日付、24文科高第895号）があった。

- (1) 文部科学大臣に対する役員変更届を速やかに行うこと。
- (2) 事務処理体制の充実強化に努め、諸規程を整備すること。

これらの事項について、改善状況を平成25年7月10日までに報告する必要がある。

#### （1）事業の概要

##### ① 経営改善に向けた取り組み

###### ■ 就業規則等の改正（一部先行）

平成22年9月の寄附行為変更と連動して行なってきた、就業規則等の変更について、平成23年4月1日より、給与規則（別表のみ）・定年規則・退職金規則の先行実施を行なった。今年度は、就業規則・給与規則本則の成案が急がれる。

###### ■ 予算執行状況報告会の実施

予算の執行状況に関して、本部・大学・高校・幼稚園の各部門の予算執行状況を月単位で把握し、財務の安定化を図る目的で「予算執行状況報告会」を開設した。平成24年度は、本部部門・大学部門・高校部門・幼稚園部門の執行状況の把握につとめた。その結果、学生生徒募集の強化が最重要課題であり急務であるとの結論にいたった。

## ② “魅力ある学校づくり”に向けた取り組み

### ■法人本部方針の策定

すでに継続的に実施されてきた経費削減方針において、消費収支における単年度赤字における減価償却費などの非資金支出が占める割合が高いことから、収入の増加を企図する経営方針への転換を行なった。その中でも、特に大学部門・高校部門では、学納金収入の増加に直結する学生・生徒募集の強化に向け、“魅力ある学校づくり”を主題とする以下の方針を策定した。今年はその2年目。

- ・大学部門：①高野山専修学院の修業年限への組入れ（平成24年度入学生に対し2年次に実施することを決定）  
②高野山靈宝館所蔵の文化財調査への協力（平成24年度から実施）  
③学習・就職支援室の開設（平成24年度から開設済み）
- ・高校部門：①紀ノ川筋へのスクールバスの運行（平成24年度から実施）  
②通信教育制度の検討（検討継続中）

### ■山内諸機関との連携

上記の方針を実行するため、従来は独自に活動していた高野山専修学院・高野山靈宝館との連携強化を行なった。高野山専修学院については、専修学院での1年間を高野山大学の修業年限（第2年次）に組入れる方向で合意に至った。この連携により、寺院後継者ならびに僧侶希望者に対し、高野山大学か専修学院かという2択状況が軽減することを期待している。高野山靈宝館との連携では、靈宝館所蔵の文化財調査に高野山大学が協力することで、靈宝館の調査の効率化を図るとともに、高野山の文化財を用いた高水準の研究の実施および学生への教育としての還元を期待している。

## （2）今後の課題

### ①管理・運営

#### ■諸規程の整備

平成22年度に変更された寄附行為・給与規則・就業規則等の各種規程と、旧規程の整合を図る作業が未だ完了しておらず、労使間の締結を見ていない。この点については、後述する大学基準協会の認証評価（保留付き認証）でも指摘されており、急務であると考え、平成24年度中に暫定版の作業を終了した。

## ■資金収支管理の徹底

平成 23 年度から開始している予算執行状況報告会を定例化し、各部門の予算執行状況の把握と管理に努める。特に高校部門での資金収支を安定的に執行するためにも、各部門での横断的な状況把握と対応協議が必要であると考える。

## ②学生・生徒募集に関する取組み

### ■大学部門・高校部門における広報活動の見直し

従来は各部門単位で実施していた広報活動・広告事業を、法人本部に資金を集めて重点的に実施する必要がある。このことにより、大学部門・高校部門・幼稚園部門の広報活動の効率的な実施を目指す。

## 2. 高野山大学

平成23年4月に藤田 新学長体制で始動した大学部門では、前年度に引き続き、教職員全員が、本学の経営的課題に関する認識を共有し、経営改善・改革の指針を共有して、教育の質的向上、経費削減、収益向上等の各課題に取り組んだ。寄附講座、生涯学習講座などが個人の寄附や企業からの協賛を得ていることや、それらの講座への参加者数などから、本学が行っている学問領域に関する社会からの関心は決して低くはないといえる。ただし、本学の財政状況は、学生数の減少が大きく影響しており、歳出削減分と同等の歳入減という状態にある。

なお、平成24年度の特筆すべき事業としては、(株)フジキン会長 小川洋史氏から、故 小川修平氏の遺志として、「宗教と科学」をテーマとした研究・公開講座などの実施を密教文化研究所を中心にスタートし、同時に学内 LAN 等ハード面の改善充実に着手したことがあげられる。また、これらに対応するための人材の補強も行った。

さらに平成24年度は、法人本部の方針に基づき、高野山専修学院・高野山靈宝館との連携、学習・就職支援室の開設など、“魅力ある学校づくり”にむけた取り組みを実施した。この取り組みは、引き続き平成25年度の大学の方針として、さらなる改善・改革の継続実施を進めていく。

### (1) 事業の概要

#### ①教育・研究および経営に関する改善・改革の取り組み

##### ■大学基準協会の大学評価

平成22年度に提出した報告書に基づき、平成23年9月29日に、財団法人大学基準協会の実地調査を受けた。結果、平成24年3月9日付で、平成27年3月31日までの3年間の期限付きではあるものの、大学基準協会の認定を受けた。

なお、その大学基準協会の認証評価における結果報告書では、①学生数の確保、②学内諸規定の整備、③財務改善計画の策定、④内部質保証システムの構築、の4点が至急改善されるべき点として挙げられている。平成23年4月に、学内委員会として「内部質保証委員会」を設立しており、昨年度に指摘された内容の改善に向けて引き続き取り組んでいく。

##### ■高野山専修学院との連携の推進

平成23年度に高野山専修学院の期間を高野山大学第2年次に組み入れるこ

とについて検討に入っていたが、平成24年度入学生から実施することで合意にいたった。寺院後継者や僧侶希望者に対し、他大学から専修学院入学する場合よりも、高野山大学に入学した場合の時間的・経費的なメリットがある点を明確にするため、大学側で授業時間割や学生への資金援助などの原案を取りまとめ細部を詰めていく予定。本学に入学する学生に、より一層充実した教育を提供することを目指す。

### ■高野山靈宝館との連携の推進

法人本部の方針に基づき、高野山靈宝館との連携を目指して協議を行った。平成24年度前期から、講義ならびに靈宝館に寄託されている文化財の調査を、大学と靈宝館との協力体制の下、実施している。

高野山専修学院との連携とあわせて、高野山でなければ出来ない“学び”の構築を企図し、今後も山内諸機関との連携を継続する。

### ■「学習・就職支援室」の開設

平成24年4月に学生の学習や就職をサポートする目的で学習・就職支援室を開設した。従来、本学ではあまり重要視してこなかった就職を、密教学科の学習の最終成果と位置づけ、大学での“学び”を通して社会人基礎力を身に付けさせることを目指す。また、平成24年度も引き続き橋本市のハローワークのキャリアアドバイザーとの協議を行い、平成24年度においてキャリア教育（簿記講座、MOS検定対策講座、秘書検定講座など）を実施した。

### ■山内寺院の貴重図書の調査

高野山竜光院文書については、昨年度に引き続き、高野山靈宝館との連携事業において、靈宝館に寄託されていた竜光院文書を借り受け、目録作成を大学にて行っている。

### ■薬物等乱用防止対策啓発運動

平成21年7月に薬物等乱用防止対策本部が設立されて以来、全学説明会や特別講演会を実施してきたが、平成24年度においても、12月報恩日講演における薬物乱用防止講演（橋本市保健所）をはじめ、日常の説明や掲示など、学生への啓発活動を継続的に実施した。

## ②東日本大震災に関する取り組み

### ■東日本大震災にかかる学費減免

平成 24 年度も前年度に引き続き、被災にかかる学費減免を実施した。申請のあった学部生 1 名、大学院生 1 名の授業料（前期分・後期分）を免除した。

### ■東日本大震災復興ボランティア

平成 24 年度も引き続き、教職員から構成されるボランティア班を派遣。

実施日時 平成 24 年 9 月 17 日（月）～21 日（月）

活動場所 宮城県南三陸町

参加者 藤田光寛 学長

乾 仁志 （密教学科教授）

奥山直司 （密教学科教授）

後藤雅則 （学生サポート課長）

（以上教職員 4 名）

## ③社会貢献への取り組みー公開講座・寄附講座ー

### ■高野山大学小川修平記念講座・寄附講座

記念式典：平成 24 年 9 月 8 日（土）、於 松下講堂黎明館

特別講演：「仏教と科学」

講師：松長有慶（高野山真言宗管長・総本山金剛峯寺座主・高野山大学名誉教授）

### ■高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

講演会：平成 24 年 11 月 30 日（金）、於 大阪市中央公会堂大集会室

テーマ：宇宙の摂理への想い 一科学と宗教の立場から一

記念講演：平野俊夫（大阪大学総長）

「いのちと医学 一大阪大学の歴史とともに一」

基調講演：棚次正和（京都府立医科大学教授）

「いのち・いやし・いのりー宗教と医療の根底にあるものー」

特別講演：帶津良一（帶津三敬病院名誉院長）

「地球の自然治癒力の回復を目指して」

パネルディスカッション

司会・進行：中村本然

パネリスト：鮎澤 聰、帶津良一、棚次正和

### ■永田良一氏の寄附による講座・講演等

永田良一氏（㈱新日本科学社長）の特別寄附により、「永田良一氏寄附講座」および「21世紀高野山医療フォーラム～生と死が手を結ぶには～」を実施した。

#### ・寄附講座

平成24年度は寄附講座を「キャリアカウンセリング1（担当者：山脇雅夫教授）」として開講した。そのうち、永田良一客員教授、池口惠觀（最福寺法主）客員教授による特別講義も行なった。

10月11日 永田良一客員教授 特別講義

11月29日 池口惠觀客員教授 特別講義

#### ・第9回21世紀高野山医療フォーラム

開催日 平成24年11月17日（土）

会場 京都市勧業館 みやこめっせ（第3展示場A面・3F）

テーマ ～生と死が手を結ぶには～

講演 基調講演 「被災者」から「震災経験者」に変わる日  
菅野 武（医師）

特別講演 たくさんの人が亡くなった後で  
—準備のない死をどう受け止めるか—  
池澤 夏樹（作家）

講演1 生きなおす力 一悲しみこそ真の人生のはじまり—  
柳田邦男（作家・医療フォーラム理事長）

講演2 悲しむ力から育む力へ  
—見守る息づかいとしてのスピリチュアリティー—  
井上ウイマラ（高野山大学准教授）

シンポジウム 危機の時代における生と死

司会・座長：柳田 邦男

シンポジスト：菅野 武 池澤夏樹 井上ウイマラ ほか  
ワークショップ 心身一如 一いのちを観じる—  
森崎 雅好（高野山大学助教）

協力 高野山真言宗総本山金剛峯寺

参加人数 689 人

## ■高野山大学公開講座

### ◎東京【概要】

「高野山大学スピリチュアルケアセミナー」としてはじまり、本学の教育の要となっている「いのち」を主題に、平成 21 年度から「いのちのセミナー」として、平成 24 年度から「高野山大学公開講座」として、AIU 保険会社代理店 有限会社高野、財団法人メディポリス医学研究財団、南海電気鉄道株式会社の協力等を得て開講した。東京での開催 6 年目となる本年は、高野山大学ならではの講義として、弘法大師空海の生涯と思想を一般の方向けに分かりやすく紹介するとともに、昨年 3 月に発生した東日本大震災を契機として、いま改めて見直されている日本人の死生観をテーマに、全 2 回の公開講座を開催した。また、伝統宗教の培ってきた世界をより身近に感じていただくための講座として、真言密教に伝わる密教瞑想法の中から、阿字観の実習も開催した。なお、9 月の公開講座では、本学の公開講座として過去最高の参加者数を記録した。

### 【高野山大学 公開講座】

会場：昭和女子大学グリーンホール

#### ① 9 月 15 日（土）

武内孝善 教授 「少年時代の空海—仏道を志したのはいつか—」

前谷 彰 教授 「弘法大師の救済観」

申込者数：190 人／参加者数：156 人

#### ② 12 月 9 日（日）

井上ウィマラ 准教授「日本人の死生観—災害ケアに活かすために—」

島薗 進 東京大学大学院人文社会系教授「日本人の死生観について—明治武士道から東

日本大震災まで—」

申込者数：195 人／参加者数：126 人

### 【高野山大学 瞑想実習】

会場：東京別院

#### ① 10 月 20 日（土）

佐藤隆彦 教授「阿字観の理論と実践（初級）」

申込者数：103 人／参加者数：77 人

② 10月21日（日）

佐藤隆彦 教授「阿字觀の理論と実践（上級）」

申込者数：92人／参加者数：64人

#### ◎大阪【概要】

社会に広く学習機会を提供するための取り組みとして、平成21年度より、南海電鉄株式会社協賛のもと、大阪なんばパークスにて生涯学習講座を開催している。今年度は夏季の講座に加え、はじめて秋季の瞑想実習も開催した。参加者は夏季が延べ75名、秋季が延べ90名。会場の利便性の良さから、毎年多数の通信教育生の参加があり、卒業生を含めた学習の場としても活用されている。

#### 【高野山大学 夏季生涯学習講座】

会場：なんばパークス 7F パークスホール

① 7月14日（土）

奥山直司 教授「真言僧初の世界一周—土宣法龍の事績—」

申込者数：36人／参加者数：23人

② 7月15日（日）

中村本然 教授・密教文化研究所所長「真言宗の安心」

申込者数：62人／参加者数：52人

#### 【高野山大学 生涯学習講座 瞑想実習】

会場：なんばパークス 7F パークスホール

① 10月12日（金）

佐藤隆彦 教授「阿息觀」

申込者数：69人／参加者数：48人

② 10月13日（土）

佐藤隆彦 教授「月輪觀」

申込者数：75人／参加者数：42人

#### ◎高野山【概要】

平成20年度から、本学の特色ある教育を知ってもらうとともに生涯学習の機会を提供するものとして、本学専任教員による連続講座形式で夏季セミナーを開催している。平成24年度は2日間の日程（8月25日・26日）の日程で開催した。参加者は延べ203名。なお、本夏季セミナーは高野町との共催で開催している「高野山学」と

の競合などを理由に、今回をもって閉鎖することとなった。

#### 【高野山大学 夏季セミナー】

会場：松下講堂黎明館

##### ① 8月 25日（土）

乾 仁志 教授「金剛界曼荼羅における賢劫千仏の描き方」

山脇雅夫 教授「哲学と宗教」

下西 忠 教授「立ち去る西行—説話に見る西行像—」

申込者数：110人／参加者数：97人

##### ② 8月 26日（日）

藤田光寛 教授「密教について考える—日本密教とチベット仏教」

川崎一洸 非常勤講師・四国霊場第28番大日寺住職「密教の瞑想法と美術」

松長恵史 非常勤講師「海から来た密教」

申込者数：119人／参加者数：106人

#### ■伝統教学復興プロジェクトの実施

平成16年度からはじまった本事業は、高野山真言宗常光院住職、山崎泰廣大僧正を大阿闍梨に、「大日經講伝」「金剛頂經講伝」「両部曼荼羅講伝」「阿字觀奧義」を開筵してきた。平成22年度からは、高野山金剛峯寺座主・高野山真言宗管長、松長有慶大僧正を大阿闍梨に迎えて、「理趣經法伝授並びに理趣經講伝」を、平成24年度から、『大日經』講伝を開筵した。

第一会…平成24年7月4日（水）～7月5日（木）

第二会…平成24年12月5日（水）～12月6日（木）

#### ■高野山学の開講

平成15年7月、調査研究・地域振興・相互施設の活用などで連携することを目的に、高野町との友好協力協定を結び、平成16年4月から、一般の人を対象に、「高野山学」を開講している。高野山学は、真言密教の聖地として独自の歴史と文化を育んできた高野山の歴史を「学び」として体系化するもので、本学教員も講師を務めている。

#### ④高野山大学密教文化研究所の活動

高野山大学密教文化研究所は、弘法大師空海の真言密教を中心に、広くアジア諸地域の

密教の教理・実践体系を明らかにし、密教文化およびその関連領域に関する総合的学術研究を行い、もってその進展と質的向上に寄与することを目的としている。さらに、その成果を活用して社会に貢献するとともに、現代における諸問題に対応することも目指し、研究活動を行っている。

## ■研究会

第1回：9月27日(木)

川田薰「真言密教と科学の初步的な比較論—その1 六大と科学—」

南昌宏「空海「贈野陸州歌」の欠字を補う試み」

第2回：11月1日(木)

大塚伸夫「第二期時代の初期密教の特徴について」

第3回：11月22日(木)

乾仁志「“金剛界マンダラに描かれる賢劫千仏”のその後」

第4回：12月6日(木)

静春樹「インド密教金剛乗の全体図明確化への途上で—サキヤ派祖師たちの「タントラ現観」およびアティシャの事例」

第5回：12月13日(木)

鈴木晋怜「既成教団の課題と寺院・僧侶のあり方

—総合調査から見えてくること—」

下西忠「西行歌「けふや君」の解釈—美福門院の納骨—」

第6回：1月10日(木)

森雅秀「戦時中の熱河における逸見梅栄の「喇嘛教」調査」

佐藤隆彦「唯一神道と十八道次第の関わり」

井上ウィマラ「東日本大震災復興支援活動から見えてきたもの」

第7回：1月17日(木)

加納和雄「チベット伝存の仏典梵文写本の由来・伝播および近年の研究動向」

森崎雅好「被災地の復興期における僧侶の役割について」

第8回：2月19日(火)

室寺義仁「仏教瞑想に係わるパーリ聖典用語について—「四念處」「四梵住」「無我と非我」「無常」「苦」—（まとめ）と「三法印」について」

## ■講演会

第1回：4月12日（木）14時～17時

内容：「宗教と科学」講座開設に向けて

講師：森勇介先生（大阪大学工学部教授）

演題：「密教の教えによるプロジェクト活性化」

講師：根岸和政先生（大阪大学工学部特別研究員、産業カウンセラー）

演題：「心理学的アプローチによる密教へのいざない」

講師：小川哲生先生（大阪大学大学院理学研究科教授）

演題：「高野山大学と大阪大学のコラボレーション」

第2回：7月4日（水）14時～17時

講師：奥健夫（滋賀県立大学教授）

演題：心と生命の科学

第3回：10月25日（木）15時～17時

講師：小川哲生（大阪大学教授、大阪大学理事補佐）

演題：光とは何か？ 現代物理学への誘い

■『密教文化研究所紀要』第26号の発行（総頁数230頁）、Web公開

■『電子版続真言宗全書』発刊

編纂・監修 密教文化研究所 製作・販売 小林写真工業（株）

■『電子版弘法大師全集』・『電子版真言宗全書』・『電子版続真言宗全書』の販売  
累計数

（小林写真工業、平成25年3月末現在）

①『電子版弘法大師全集』 398部

②『電子版真言宗全書』 246部

③『電子版続真言宗全書』 217部

版権料：1,417,024円（ただし、『真言宗古字書資料集』も含む）

■補助金「特別補助／大学院等の機能の高度化への支援／研究施設運営支援」

○申請額 1,437,000円 → 補助金額 499,000円

## ⑤平成24年度図書館事業報告

図書館においては、利用者本位の運営に心がけ、通常は9時から21時30分の12

時間 30 分を開館時間とし、毎月発行の『それゆけ図書館だより』をはじめ、図書の発注・受入・整理の他に、昨年度のいくつかの注目すべき事業を以下に報告する。

- ① 平成 25 年 3 月に図書館ホームページをリニューアルする。そこでは、学内の近刊学術雑誌目次一覧などの二次資料を公開し、図書館が編集発行した刊行物や CD-ROM も紹介して、本学における学術情報センターとしての役割を担うことができた。
- ② 図書館が主催となり、内外の識者を講師に迎えて図書館戸田文化講座を都合 5 回開催する。

第 1 回：5 月 15 日(火) 講師：入谷和也（元和歌山県文化遺産課教育企画員）  
『高野山歴史の道“不動坂”を歩く』

第 2 回、9 月 27 日(木) 講師：日野西眞定（本学元教授）  
『花折信仰について』

第 3 回、11 月 22 日(木) 講師：結城啓司（和歌山県文化財センター技師）  
『金剛三昧院客殿および台所の変遷』

第 4 回、12 月 5 日(水) 講師：野田悟先生（本学助教）  
『中国美術学院から見る日本書道の現在』

第 5 回、1 月 10 日(木) 講師：下西忠(図書館長)  
『土佐日記の本文理解—変体仮名を通して—』

- ③ 図書館閲覧室において図書館ミニコンサートを以下の都合 2 回開催して、親しみのある図書館としての性格を打ち出した。

第 1 回：7 月 4 日(水)『お箏コンサート』演奏：桜野清里(高野山大学講師)・  
今北有紗（同元職員）・小松陽彦（同密教学科 4 回生）

第 2 回、12 月 20 日(木)『エレキギターコンサート』演奏：長尾龍明（本学 3  
回生）。

- ④ 研究活動としては、高野山龍光院所蔵聖教類の調査を挙げる。図書館では、靈宝館所蔵の高野山龍光院所蔵聖教類約 100 函の移管を受けて、同資料の悉皆調査を進める。龍光院は大師ご住房跡との伝承をもち、国宝・重文等貴重な文化財を多数所蔵する名刹である。調査団長は、前図書館長の武内孝善教授。図書館内の研究室にて基礎資料となる目録作りを行っている。

- ⑤ 平成 24 年度は、東京足立区在住の篠田禹子氏から、一般書段ボール 100 函余りと、書画骨董類・茶道具等 100 函余りを受贈する。特に、その中でも中世に遡る墨蹟や壺が貴重で、現在鋭意整理中である。

## (2) 今後の課題

### ①大学の改善・改革に向けて

#### ■内部質保証委員会

平成23年度に大学基準協会から指摘された、①学生数の確保、②学内諸規定の整備、③財務改善計画の策定、④内部質保証システムの構築といった点について、内部質保証委員会において検討を重ね、平成27年3月31日の期限までに、これらの点を改善することを目指す必要がある。その内、特に重視すべきは学生数の確保である。

#### ■学生数の確保・教育コンテンツの見直し・学生サービスの充実

学生数の確保に向けて、特に重要視すべきなのが、教育コンテンツが在学生から満足されるものであり得るか、という点である。今後、学生により関心を持って臨んでもらえる教育コンテンツを構築していく必要がある。本学の学生募集のターゲットを18歳におくべきかどうか。誰をターゲットに広報・社会発信をしていければ学生数増加につながる可能性があるか。そのための教育コンテンツを構築することに人手と資金を集中する必要がある。

### 3. 高野山高等学校

#### (1) 総論

高野山高校では、平成 24 年度入学者が 54 名であり、目標値の 60 名に届かなかつたが、生徒募集に向けた試みは平成 25 年度生徒募集にも継続的に活かされている。と同時に、宗教教育を中心に据えつつ心の教育に力点を置いた指導は、卒業生や保護者から一定の評価を得ており、今後、好転的に生徒募集を進めていく兆しがうかがえる。しかしながら、今後、高野山高校の経営基盤を安定させるためには生徒増を計る努力と従来以上の収入源となる事業を検討する必要がある。

#### (2) 現状

##### ①高野山高校の生徒数

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
生徒数(宗教科生徒数)	189(43)	175(39)	167(31)	160(26)	145(23)
新入生数(宗教科生徒数)	60(14)	65(10)	54(8)	56(6)	54(11)
高野山大学への進学者数	15	8	10	9	11

##### ③ 高野山高校の財務状況

収入の部	平成 23 年度	平成 24 年度補正	平成 24 年度決算案
学生生徒等納付金	68,422,400	63,010,000	64,895,250
寄附金収入	61,721,000	68,700,000	82,668,370
補助金収入	74,756,600	65,000,000	68,480,150
資産運用収入	7,681,723	7,150,000	9,875,147
事業収入	28,400,630	24,000,000	26,256,904
その他の収入	28,580,040	17,850,000	25,921,631
帰属収入合計	269,562,393	245,710,000	278,097,452
基本金組入額	△ 10,316,756	△13,000,000	△13,693,859
消費収入の部合計	259,245,637	232,710,000	264,403,593

##### 支出の部

人件費	165,274,735	182,064,800	178,615,045
教育研究経費	81,984,606	89,970,000	85,796,275
管理経費	54,148,590	59,900,000	53,440,262
その他の支出	1,515,043	1,287,744	1,287,744
消費支出の部合計	302,922,974	333,222,544	319,139,326

消費収支差額	△43,677,337	△100,512,544	△54,735,733
--------	-------------	--------------	-------------

### ③分析

#### ■生徒数の推移

- ・今後、入学者の目標値 60 名を達成できる様努力する。

#### ■平成 24 年度決算案

- ・平成 24 年度第一次補正予算案における消費収支差額は、1 億円の消費支出超過。  
当初予算編成時の消費支出超過額は 9,600 万円で 400 万円の消費支出超過額の増加であったが、決算時には 4,650 万円減少し 5,400 万円。
- ・消費支出の内、減価償却額の占める割合は 97% (5,250 万円)。

#### ■平成 23 年度決算との対比

- ・「消費収入」は、500 万円増加。
- ・「消費支出」は、1,600 万円増加で教研費 400 万円、退職金引当 1,200 万円の増加による。

### (3) 平成 24 年度事業計画

#### ①単年度の収入増加・経費削減

##### ■経常費補助金の増加

- ・経常費補助金「教育改革推進特別経費」の申請を見直し、「体験活動の推進」「教育相談体制の整備」「教育の国際化」部門で採択された。
- ・達成增收額：90 万円
- ・実施期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
- ・担当部署：事務局

#### ②教育改革

##### ■宗教科の単位増加

- ・高い評価を受けている宗教科の指導及び宗教的実践力の育成に加えて、高い基礎学力を備えた生徒の育成を企図し、Ⅱ類を設置して土曜日の授業を開講した。私立文系難関大学を目指す事を目的にしている。

##### ■普通科の再編

- ・スポーツコース内にサッカー専攻を設置する事を検討する。

### ③業務改善

#### ■校長・教頭による生徒募集の強化

- ・生徒募集の訪問活動を、校長・教頭を中心に実施した。伊都地方の中学校・塾を今迄以上に訪問した。地道な生徒募集活動の他、地元の高野山中学校から入学した生徒には授業料減免の措置を講ずる他、町議会に就学支援金制度の創設を打診する等、地元中学校からの入学者への種々特典についての検討を実施した。

### ④投資的事業

#### ■スクールバスの運行

- ・紀の川筋からの生徒募集を企図し、スクールバスを運行。平成24年度利用生徒14名。平成25年度利用生徒18名の他、寄宿舎生が高野町外の病院へ通院する際や帰省の折、片道500円で利用出来る事も可能で好評である。

#### ■通信教育制度の検討

- ・残念ながら突発的な事件の為、7月以降取り組めず。

### (4) 平成24年度補正予算、それ以降の予算編成に向けて

#### ■資金収支計算書 次年度繰越支払資金の増加

平成24年度一次補正と比較して寄附金2,000万円、山添亀法奨学特定資産が早期償還されその他の収入が1億1,000万円増加により、1億3,000万円の収入増。これにより次年度繰越支払資金も6,000万円弱増加した。

#### ■消費収支超過額と減価償却額

- ・高校部門の消費支出超過額は、5,400万円。
- ・消費支出の内、減価償却額が約97%にあたる5,250万円を占めており、更なる支出削減による急激な赤字解消は困難である。

#### ■重点項目

- ・通信教育制度導入に際しての先行投資、校内各所や寄宿舎の大規模修繕や設備の新規取得等、予算編成と執行についての中長期計画を早急に策定する。

## (5) 事業の概要

### ①教育に関する取り組み

#### ■普通科・宗教科における教育内容

##### ・普通科 AL 進学コース

普通科進学コースでは演習の時間を設け、個別指導を重点におき、総合コース（自己探求系）において、数学では公文式教材を使用し個別指導、国語は漢字能力検定用の教材を使用し個別指導、英語ではインターネットを利用した個人指導を行なう。英、数、国に関しては3学年共、習熟度別にクラスを編成して授業を実施している。

また、1学年の基礎学力未定着者に対しては、「学び直し」の補習を、3年生も希望進路に向けて、放課後や土曜日を利用し、英、数、国と福祉（介護福祉士国家試験対策）の補習授業を実施した。長期休暇には各学期に定期考查の基準点に到達していない生徒を対象に、補習や進学・就職対策講座を実施している。

##### ・普通科総合コース（自己探求系）

総合コース（自己探求系）の数学では公文式教材を使用し、国語は漢字能力検定用の教材を使用した綿密な指導を展開し、英語ではインターネットを利用した個人指導を行う。また、校外講師のご協力を得、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の豊かな自然、文化遺産等本県のもつ多くの価値ある財産を活用し、体験的に学習しながら郷土への理解を深めた。また、インターンシップの導入や、高野町の協力の下、各種団体の方々からレクチャーや討論会、実習を行なっている。世界の福祉見聞録（学校設定科目）において、インターネットを利用し問題意識を持ち問題解決の方法や現状についての考察を行った。

##### ・普通科総合コース（介護福祉士養成系）

総合コース（介護福祉士養成系）では、社会福祉実習（施設実習を含む）を通して、高齢者の方や障害を持っている方々とのふれ合い方や援助の方法、現在の福祉の制度や状況を学んでいる。

##### ・普通科マスターズコース（硬式野球・バスケットボール）

マスターズコース（硬式野球・バスケットボール）では、体育理論やスポーツⅡの授業において、それぞれの競技をより専門的に学び、技術の向上は勿論、指導方法なども体験の中から学んでいる。

・宗教科

宗教科では、高等教育の基本となる主要科目をはじめ、高野山ならではの宗教授業を展開している。高野山真言宗の教えの下、仏教の専門知識の習得を通して豊かな人格形成を目指し、四国遍路や高野山内の法要の体験、梵習字やご詠歌の学習・布教の実習などの体験を実施した。また、精神の鍛磨と幅広い視野の涵養を企図し、書や茶道、座禅を通じた礼儀作法の教育も行なっている。

■国際交流

平成24年9月23日（日）～24日（月）台湾の姉妹校 元培医科大学理事長一行が来校し、歓迎式典等を行った。

■学校行事

年間の主な年間行事は以下のとおり。

1. 音楽法会 5月26日(土)
2. 青葉祭前夜祭 6月14日(木)
3. 青葉祭 6月15日(金)
4. 南嶺祭(文化祭) 9月29日(土)、30日(日)
5. 四国遍路 10月23日(火)～27日(土)
6. 明神社大祭 10月16日(火)
7. 追悼法会 11月17日(土)

■平成24年度進学実績

複数の合格者があった場合のみ、( )内に合格者数を表記した。

・4年制大学・短期大学

高野山大(5)、関西外大、大阪人間科学大(2)、名古屋産大、大成学院大、帝塚山大、奈良大、大谷大、大正大、東大阪大、関西福祉科学大、四天王寺大、大阪学院大、甲子園大、奈良佐保短大、和歌山信愛女子短大、

・専門学校

新大阪歯科技工士専門学校、大阪外国語専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校、履正社医療スポーツ専門学校、大阪モード学園、東海調理製菓専門学校、大原簿記医療専門学校

・就職

洛和会病院、KK湊組、広門興業、俱利伽羅不動寺、オンテックス  
老人保健施設エスポワール、自衛隊

②生徒募集に向けた取り組み

大阪・奈良・和歌山方面各中学校、学習塾への訪問。各中学校・塾、全国高野山真言宗寺院(他宗派寺院含む)へのダイレクトメール郵送。また、以下のような募集活動を実施した。

■学校説明会

・中学校主催

和歌山市中学校合同説明会（9月20日）  
伊都地方中学校合同説明会（10月12日）  
泉南地区中学校合同説明会（10月18日 ※資料参加）  
高野山中学校 説明会（11月16日）

・学習塾、各種団体主催

関西私塾教育連盟主催教育セミナー（9月25日）  
五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会（10月10日）  
和歌山県私塾協同組合主催私立学校合同進学説明会（10月30日）  
泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会（10月30日）  
教育と進路を考える会説明会（12月3日）  
全寮協主催「寮のある学校説明会」  
名古屋（11/10）、大阪（11/11）、横浜（11/13）、東京（11/14）

■体験入寮・体験スクール

対象者に施設・設備を開放し、各コースの詳細説明や、実際に一日寄宿してもらい寮生活を体験して頂く事業。第1日目午後から寮見学と宿泊体験。翌日は学校説明会で各学科、コースのプレゼンテーションにより、本校の教育内容を判りやすく提示した。イベント告知の展開は、中学校、塾への訪問の際、当イベントのチラシを持参。過年度の資料請求者へも案内を送付した。

第1回：平成24年 8月25日（土）・26日（日）

第2回：平成24年11月10日（土）・11日（日）

第3回：平成24年12月 8日（土）・ 9日（日）

参加者：50名（3回の合計）

### ■公開授業

実施日 平成24年11月17日(土)

### ■公開実力テスト

① 大阪：平成24年11月25日(日) 21名

② 和歌山：平成24年12月 9日(日) 34名

### ■教育講演会

大阪、奈良、和歌山の学習塾（約1,300件）にイベント案内を送付。本教育講演会は、一度に多数の塾関係者と親交を保ち、本校の教育内容を披瀝する事の出来る機会である。

#### ・第1回 大阪

日 程：平成24年10月 9日(月)

会 場：ホテルアヴィーナ大阪

対 象：大阪・奈良塾関係者

講 演：「ティーンからのメッセージ」

講 師：家田莊子 先生

参加者数：125名

#### ・第2回 和歌山

日 程：平成24年10月15日(月)

会 場：和歌山ビッグ愛

対 象：和歌山県内塾関係者

参加者数：20名

### ■テレビ広告

和歌山テレビ制作で私学3校による学校紹介番組を放映

平成24年10月28日(日) 12:00～12:45

平成24年11月 7日(日) 19:00～19:45

## ■平成25年度入試結果

出願区分	受験者数	合格者数	入学手続き者数
専願	44	43	43
併願	34	34	3
合計	78	77	46

## ③新規事業の実績

### ■スクールバスの運行

法人本部の方針に基づき、紀の川筋からの生徒募集を企図し、橋本市から高野山高等学校までのスクールバスの運行を実施した。14名の生徒の利用があり寄宿舎生が帰省や橋本市内の病院の通院等にも片道500円で利用出来るようにした。

スクールバス利用料収入 1,856,000円 ／ 経費計 3,095,058

内訳①人件費	2,400,000
②車両燃料費	572,568
③車両修繕費	82,550
④保険料	13,840
⑤租税公課	26,100

### ■通信教育制高校の検討

高野山高校の経営基盤を安定させるために必要不可欠な新規事業として、全国広域通信制の導入の検討を行なった。通信教育制の導入により、宗門立の高校にふさわしい「心の教育」を重視した指導で、不登校児等も含めた新たな生徒募集の領域の拡大を企図している。今後は、収益計算や業務量のシミュレーションを作成し、より具体的な検討に入る。

## (6) 今後の課題

### ■通信教育制度

高野山高等学校における通信教育制度の導入に向けた検討に、業者を用いたマーケティングに加えて、収支予測のシミュレートを実施したい。通信教育制度が実行されれば、生徒募集における地理的条件の問題はある程度解決することが見込まれる。実現の方向に向け、慎重に検討を重ねたい。

## 4. 高野山幼稚園

平成 21 年度から、和歌山県ならびに高野町との協議・調整のもとに行なってきた、保育所施設における幼稚園児の教育と保育所児の保育との合併事業は、平成 24 年度から 25 年度まで 2 年間更新された。

宗教にもとづく「教育」と行政の義務である「保育」という、目的の異なる双方を行なうという点で、課題は常に生じているが、これまでの成果をもとに、その都度一つずつ解決をはかっている。長期的な展望に基づいて、よりよい形の運営形態を構築していくため、保育園事業の委託者である高野町との話し合いを定期的に行い、「認定こども園」として申請する方針である。

### (1) 事業の概要

#### ① 教育に関する取り組み

##### ■ 教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

##### ■ 預り保育の実施

幼稚園児に対して月曜日～金曜日の午後 3 時から午後 5 時までと土曜日の午前中を預り保育の時間に当て、保育時間の確保を実施してきた。保育士の人材確保は充分とはいえないが、保育士と幼稚園教諭が相互補助をしてきめ細かい保育をしてきた。

##### ■ 宗教教育

宗門に属する幼稚園教育と公に属する保育という性格の違いから、平成 21 年度以来、園児たちの反応に留意しつつ、共同で教育・保育を行う場合の行事等の精選をおこなってきた現場の努力と、高野山という土地柄もあってか、宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育内容については、保護者からも好評を得ている。

#### ② 運営に関する取り組み

##### ■ 和歌山県・高野町との協議

平成 24 年度は、前年度に引き続き、和歌山県・高野町と協議して指導を受けな

がら、業務・運営に関する事項の隨時改善につとめてきた。

## (2) 今後の課題

### ■ 「認定こども園」に向けた検討

高野町との幼保一体化事業を協議により進めてきたが、平成25年2月15日付で高野町より、

- ・保育所型認定こども園（仮称「高野山こども園」）として平成26年4月1日開所を目指す。
- ・園の設置は高野町とし運営を民間に委託する公設民営方式とする。
- ・運営業者の選定については地域の事情に詳しく、保育所、幼稚園運営に実績がある者とするが、町の保育方針等も鑑み、必要に応じて公募という形も検討する。

という旨の提案がなされた。この提案への回答は、今後の幼稚園運営の方針に関わるものであるため、早急な判断と対応が必要である。

【担当】常務理事会・理事会・評議員会・幼稚園

また、事務部門における人材配置を重点的に検討する。幼稚園教員の負担軽減とともに、収入源の拡大をめざした運営を計画するために、幼稚園事務の見直しをあわせて行なう必要がある。

### **III. 財務状況** ※会計監査中につき、現時点での仮の財務分析である。

#### **1. 平成24年度の財務状況**

高野山学園における平成24年度の財務状況において、特筆すべき点は、

- ① 高校の山添亀法奨学特定資産の1億円が早期償還されたこと、
  - ② 大学男子寮（食堂を含む）の建物が取壊しにより除却されたこと、
- である。平成24年度は全体で3億1千万円の赤字（消費支出超過額）となっている。学生生徒納付金収入は、前年度決算や平成24年度1次補正予算編制時に比してさらに減少しており、経営状態の安定にまでは至っていない。

##### **(1) 資金収支計算書**

###### **①資金収支計算書の概要**

###### **■資金収支計算書について**

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。31ページの資金収支計算書では、平成23年度決算と平成24年度の当初予算および平成24年度補正予算、さらに平成24年度決算（案）を対比する形で表している。

###### **②平成24年度の財務状況**

###### **■支払資金の減少**

平成24年度決算案における次年度繰越支払資金は、補正予算編制時よりも8,000万円の減少、当初予算編制時からは9,700万円減少している。これは赤字増加に歯止めがかかっていないことを表している。

##### **(2) 消費収支計算書**

###### **①消費収支計算書の概要**

###### **■消費収支計算書について**

消費収支計算書は、当該会計年度における消費収支の均衡状態と内容を明確する、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の損益（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。32ページに掲載した消費収支計算書では、平成23年度決算と平成24年度の当初予算および平成24年度補正予算、さらに平成24年度決算（案）を対比している。

## ②平成24年度の財務状況

### ■消費収入の減少と消費支出の減少

平成24年度決算案では、補正予算と比して、消費収入が5,800万円の減少、消費支出が6,600万円の減少となっている。この点については、支出の圧縮努力はしているが、根本的な問題である学生数の減少に歯止めがかかっていないことを表している。

## (3) 貸借対照表

### ①貸借対照表の概要

#### ■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、消費収支差額）で表す。33ページに掲載した貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

## ②平成24年度の財務状況

### ■資産の減少

平成24年度末では、資産（固定資産）が3億7,600万円減少している。この減少は、上述の大学男子寮（食堂を含む）の建物除却（2億4900万円）によるところが大きい。また、負債が5,300万円減少しているが、これは退職給与引当金の減少によるところが大きい。昨年度は5億円の寄付金により収入増加となつたが、ここ数年の学園の財務状況の実態としては、経費を削減しつつも学生・生徒の増加に至っていないことが顕著になっている。

## 2. 高野山学園 資金収支計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日（単位：円）

収入の部	① H23 決算	② H24 当初	③ H24 補正	④ H24 決算案	⑤ 差異 (③-④)
学生生徒等納付金収入	309,074,400	294,354,500	280,671,000	286,968,290	△ 6,297,290
手数料収入	6,201,210	4,072,000	4,435,000	4,866,285	△ 431,285
寄付金収入	685,412,426	162,950,000	176,650,000	181,912,370	△ 5,262,370
補助金収入	172,250,841	150,064,720	150,314,720	142,800,388	7,514,332
資産運用収入	29,582,780	20,290,000	20,240,000	30,648,140	△ 10,408,140
事業収入	82,928,137	48,340,000	52,590,000	52,882,715	△ 292,725
雑収入	68,266,532	17,700,000	30,135,000	42,814,816	△ 12,679,816
前受金収入	69,935,000	58,535,000	58,535,000	50,760,000	7,775,000
その他の収入	528,754,193	89,028,580	113,255,780	239,617,426	△ 126,361,646
資金収入調整勘定	△ 978,851,562	△ 62,35,000	△ 88,305,000	△ 106,852,642	18,547,642
前年度繰越支払資金	446,690,895	456,953,990	507,305,337	507,305,337	0
収入の部合計	2,301,244,852	1,293,983,790	1,305,826,837	1,433,723,125	△ 127,896,288
支出の部	① H23 決算	② H24 当初	③ H24 補正	④ H24 決算案	⑤ 差異 (③-④)
人件費支出	488,515,923	490,685,000	505,392,100	500,462,068	4,930,032
教育研究経費支出	170,399,083	158,802,000	174,488,500	146,724,341	27,764,159
管理経費支出	167,802,532	108,375,000	119,085,000	111,579,165	7,505,835
借入金等利息支出	1,515,043	1,287,744	1,287,744	1,287,744	0
借入金等返済支出	7,540,409	7,767,708	7,767,708	7,767,708	0
施設関係支出	3,071,700	0	0	5,147,427	△ 5,147,427
設備関係支出	8,539,187	7,670,000	19,199,000	25,258,795	△ 6,059,795
資産運用支出	951,318,339	19,916,000	16,321,000	94,946,949	△ 78,625,949
その他の支出	32,825,661	22,252,000	46,000,000	39,829,507	6,170,493
[予備費]	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000
資金支出調整勘定	△ 37,588,362	△ 19,352,000	△ 39,152,000	△ 28,372,943	10,779,057
次年度繰越支払資金	507,305,337	431,780,338	450,437,785	529,092,364	△ 78,654,579
支出の部合計	2,301,244,852	1,239,983,790	1,305,826,837	1,433,723,125	△ 127,896,288

### 3. 高野山学園 消費収支計算書

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日（単位：円）

消費収入の部	① H23 決算	② H24 当初	③ H24 補正	④ H24 決算案	⑤差異 (③-④)
学生生徒等納付金	309,074,400	294,354,500	280,671,000	286,968,290	△6,297,290
手数料	6,201,210	4,072,000	4,435,000	4,866,285	△431,285
寄付金	685,412,426	162,950,000	176,650,000	206,220,867	△ 29,570,867
補助金	172,250,841	150,064,720	150,314,720	142,800,388	7,514,332
資産運用収入	29,582,780	20,290,000	20,240,000	30,648,140	△10,408,140
事業収入	82,928,137	48,340,000	52,590,000	52,882,715	△292,715
雑収入	106,585,283	17,700,000	30,135,000	50,125,542	△19,990,542
帰属収入合計	1,392,035,077	697,771,220	715,035,720	774,512,227	△ 59,476,507
基本金組入額合計	△30,005,053	△ 7,800,000	△ 13,000,000	△ 13,693,859	693,859
消費収入の部合計	1,362,030,024	689,971,220	702,035,720	760,818,368	△58,782,648
消費支出の部	① H23 決算	② H24 当初	③ H24 補正	④ H24 決算案	⑤差異 (③-④)
人件費	464,110,193	548,785,000	486,476,800	476,986,781	9,490,019
教育研究経費	344,922,650	339,652,000	355,488,500	315,411,745	40,076,755
管理経費	195,111,297	146,895,000	157,605,000	137,743,745	19,861,255
借入金等利息	1,515,043	1,287,744	1,287,744	1,287,744	0
資産処分差額	0	0	0	141,221,007	△141,221,007
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0
〔予備費〕	0	5,000,000	5,000,000	0	5,000,000
消費支出の部合計	1,005,659,183	1,401,619,744	1,005,858,044	1,072,651,022	△66,792,978

当年度消費収入超過額	356,307,841	0	0	0	0
当年度消費支出超過額	0	351,648,524	303,822,324	311,832,654	△8,010,330
前年度繰越消費支出超過額	1,004,347,600	754,591,513	647,618,059	647,618,059	0
基本金取崩額	358,700	0	0	0	0
他部門繰入金収入	0	0	0	0	0
他部門繰入金支出	0	0	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	647,618,059	1,106,240,037	951,440,383	959,450,713	△8,010,330

## 4. 高野山学園 貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日 (単位 : 円)

資産の部	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	9,346,033,829	9,722,922,791	△376,888,962
有形固定資産	5,650,086,426	5,941,345,253	△ 291,258,827
土地	1,319,555,340	1,319,555,340	0
建物	3,147,266,395	3,396,460,723	△ 249,194,328
その他有形固定資産	1,183,264,691	1,225,329,190	△42,064,499
その他固定資産	3,695,947,403	3,781,577,538	△85,630,135
流動資産	576,108,282	550,695,999	25,412,283
現金預金	529,092,364	507,305,337	21,787,027
その他流動資産	47,015,918	43,390,662	3,625,256
資産の部合計	9,922,142,111	10,273,618,790	△351,476,679
負債の部	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	530,679,824	560,176,488	△29,496,664
長期借入金	32,619,044	40,620,935	△8,001,891
退職給与引当金	488,769,540	519,555,553	△30,786,013
長期未払金	9,291,240	0	9,291,240
流動負債	125,435,393	149,276,613	△23,841,220
短期借入金	8,001,891	7,767,708	234,183
その他流動負債	117,433,502	141,508,905	△24,075,403
負債の部合計	656,115,217	709,453,101	△ 53,337,884
基本金の部	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	9,864,839,601	9,851,145,742	13,693,859
第3号基本金	202,138,006	202,138,006	0
第4号基本金	158,500,000	158,500,000	0
基本金の部合計	10,225,477,607	10,211,783,748	13,693,859
消費収支差額の部	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	959,450,713	647,618,059	311,832,654
消費収支差額の部合計	△ 959,450,713	△647,618,059	△311,832,654

負債の部、基本金の部及び消費収支 差額の部合計	9,922,142,111	10,273,618,790	△351,476,679
----------------------------	---------------	----------------	--------------